

リーディングDXスクール事業【実践事例】

山形県立酒田光陵高等学校（山形県）【指定校】

【取組内容①】 授業解説動画を活用した個別最適な学びの実践

◆ 実践

教師自身が作成した授業解説動画をYouTube上にアップし、学習者が自身の到達度に合わせて授業内および家庭学習にて動画を活用できるようにした。

◆ 目的

- 教室内に混在する習熟度の異なる生徒が、自分の到達度に合わせた学習を行うことができる
- 支援が必要な生徒に対して、教員が個別に指導できる環境を構築する
- 基礎的な知識を動画学習で行うことで、授業内での生徒同士や教員とのコミュニケーション時間を増やし、より深い理解をめざす
- 自発的な学習がしやすくなり、学習意欲の向上と自律的な学習姿勢を身につける

◆ 学習者の到達段階と動画活用のイメージ

学習者の到達段階		授業時の活動
到達度①	応用問題にも自力で取り組むことができる	解説動画を活用 + 教師の個別サポート
到達度②	形式を変えた問題は概ね解くことができるが、応用問題は解くことができない	解説動画を活用 or 到達度①の生徒と協働学習
到達度③	例題の解法を見て類題を解くことができるが、形式を変えた問題は解くことができない	解説動画を活用 or 到達度②の生徒と協働学習 or 教師の個別サポート
到達度④	例題の解法を見ても、その類題を解くことができない	教師の個別サポート

教室内に混在する習熟度の異なる4段階の学習者の学びを、
動画活用により、
それぞれの習熟度に合わせたサポートを実現

リーディングDXスクール事業【実践事例】

山形県立酒田光陵高等学校（山形県）【指定校】

【取組内容①】 授業解説動画を活用した個別最適な学びの実践

◆ 動画制作における工夫

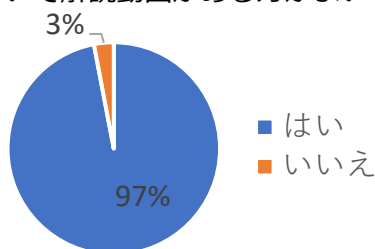
- 動画1本の時間は5分以内
- 黒板を使っての解説動画であり、編集は行わない
- 作成にはタブレット端末のみを使用する

◆ 授業における工夫

- 生徒の自主性・意欲を出させるために、演習プリントを「基礎をしっかりと」「平均点以上取る」「満点を目指す」など、自分が目指すべき問題がわかるように配置した
- 自由に移動や会話などができる雰囲気を作り、グループで解法を確認しながら進めることもできるようにした

◆ 授業アンケート

授業において解説動画がある方がよい



自由記述※抜粋

● 「はい」と答えた方

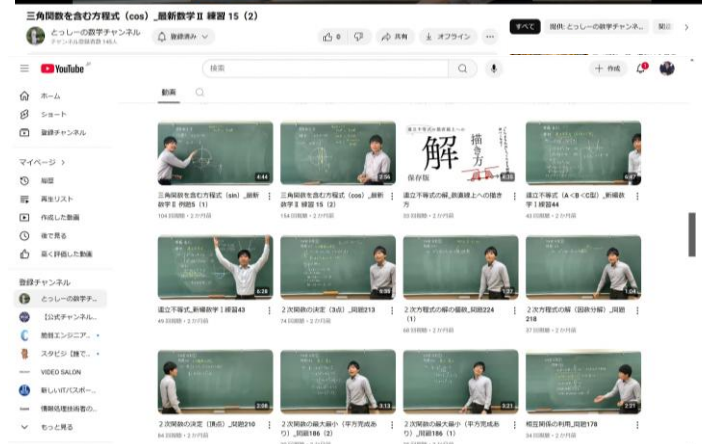
- ・ 見たいときにいつでも見れるから
- ・ 進むのが遅いときに便利だから
- ・ わからないところがわかるから
- ・ 途中計算がわかるから
- ・ 先生が他の人に教えているときも見れる
- ・ 家に帰ってから解き方を確認できる

▲ 「いいえ」と答えた方

- ・ 端末を開くのに時間がかかる

◆ 成果・変容

- 進度の早い生徒は難易度の高い課題に積極的に取り組み、習熟度が低い生徒も授業に向かうようになった。
- 支援が必要な生徒への個別指導に時間を当てることができ、学習活動が活発化している
- 定期テストでは目立った得点の向上が見られず、学習成果の定着が課題である。



リーディングDXスクール事業【実践事例】

山形県立酒田光陵高等学校（山形県）【指定校】

【取組内容②】 教科・学科を横断した、情報活用能力の育成

◆ 目的

- 各学科間にある情報活用能力の差に対し、Chromebook端末の利活用能力を一定の基準を担保することで、各教科におけるICT活用の導入をスムーズにし、授業での利活用を推進する。
- 学科や部活・課外活動でも生徒が積極的に活用できるようにする。

◆ 実施内容

学科横断の統一教材作成	情報活用講座	全校情報モラル講座	ICT公開授業
 Classroomより参加 GoogleClassroomで対応するクラスを開き 「クラス」の上に追加された、 ビデオのマークをタップして、開始する。 ここをタップ！ ➢ 学科間で指導内容を統一し、共通教科や課外活動でのスムーズなICT利用を行う ➢ 「Chromebookの使い方」「校内のネットワーク活用」「情報モラル」「クラウドストレージの使い方」	 ➢ 1年次全学科 1時間実施 ➢ 情報科教員が実施することで、最低限のできることの統一 ➢ 「情報モラルとセキュリティ」「GoogleWorkspaceの使いかた」	 ➢ 毎学期末に全校生徒を対象にモラル講座を実施 ➢ 「情報モラル」「酒田光陵高校生成AIポリシー」	 ➢ ICTの活用や生成AIの教育利用をテーマとした公開授業を実施

◆ 成果・変容

- これまで学科間でChromebookの活用に差があり、授業での利用において、学科によって「使い方の指導」から始めなければならずハードルがあった。その差を解消し、授業での積極的な導入を図ることができた。
- ネットワーク環境等のハード面でも同時に整備を行い、校内ほぼすべての教室・実習室でwifiが利用可能となったこともあり、課外活動でも積極的に活用する様子を見ることができた。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

山形県立酒田光陵高等学校（山形県）【指定校】

【取組内容⑤】 ICTの教育利活用・校務DX推進に向けた光陵DXプロジェクトミーティングの定期開催

◆ 目的

- 情報科を中心に進めてきたICT教育利用や校務DX化を学校全体への普及を目指し、普通科・工業科・商業科でもICTを「毎日」活用することで授業の充実を目指す

◆ 実施内容

- 「光陵DXプロジェクト」の実施
 - 各教科・各学科より一名以上、ICT利活用を積極的に推進するメンバーを選出
 - 月1回のミーティング(研修会・勉強会など)の実施
 - バズセッション方式で、各先生方のICT利活用についての情報共有や悩みがある先生方の課題解決を行う
 - 研修は、外部で行われた研修会の報告を中心に、持ち回りで実施した(負担感の軽減)
 - ミーティング内容をICT利活用例として、全職員に公開する
- すべての先生方に対して強制感のある研修などを行うのではなく、できる人・やりたい人から広げていく

◆ 研修テーマ

日時	テーマ
5月15日	校務でのICT活用・職員会議への提言
6月20日	生成AIの使い方～プロンプトエンジニアリング
7月12日	ICTを活用した事例の報告と共有
9月11日	GoogleWorkSpacePlus研修
10月 4日	ICTの利活用についての情報共有
11月15日	リーディングDX公開授業に向けた研修会
12月12日	デジタルホワイトボードの利用と活用研修
1月21日	授業動画作成 研修



ICTを活用した事例の報告&共有

- プロジェクタを使い、帳簿を黒板に投影し、そこにチョークで書き加える（SKM）。
- 出題資料を生徒とGoogleドキュメントで共有して、添削を行った（SKM）。
- 小論文指導のやり取りについて、Googleドキュメントを使って添削した（CH）。
- 授業でGoogleフォームを使って回答したもの（スプレッドシート）を生徒名をわからないようにして生徒に共有した（CH）。
- 質問の一覧を手書きではなく、Googleフォームを使ってまとめた（CH）。
- 授業でChatGPTを利用。プロンプトにひらがなで数式を入力すると数式やグラフを作成してくれる（TS）。
- 異なる教科間でClassroomを使って情報共有（CH）。

◆ 成果と課題

- これまで事例紹介が中心だった研修が、バズセッションのミーティングにより先生方の困り所を知るとともに、課題解決することでより前向きにICTの活用が進んだ。
- 全体への普及はまだまだである。無理強いをせず地道に取り組んでいく。